

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290700057		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・相生②		
所在地	島根県浜田市相生町1445番地2		
自己評価作成日	2019年10月7日	評価結果市町村受理日	令和2年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和元年11月12日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①入居者一人ひとりが自分のできることをしながら生きがいを持って生活していけるように支援している。  
 ②環境が与えるストレスを軽減するために、外食やドライブの外出支援を積極的に行っている。  
 ③地元の神社にお参りに行ったり、近所のお花が一杯のお宅まで散歩に出かけたりして地域の住民との会話を楽しんでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中心市街地からやや入った静かな住宅地に位置している。新旧入り混じった地域で集落規模が大きいので、近隣との関係を築くには時間を要したが、今年度は避難訓練への地域住民の参加も得られ、開所から地道に取り組んだ成果が伺える。ここ数年、重度者はあるものの、入居者の状態も職員にも変化がなく安定している。毎日の体操や近隣の散歩、食材の買い物と日課があり、フロアからは常時笑い声が聞こえ活気が感じられた。管理者を中心にチームワークが良くアットホーム感も強い。今後にも2つのユニットの特徴を生かすことで、入居者により良い効果が出るよう取り組んでいただきたい。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいたケアをするために、日々のケアの中やスタッフ会議で話し合う時には理念を復唱し、共有しながら実践に繋げている。	開所当初からの理念を継続しつつもグループ全体として介護事業部のスローガンを毎年掲げている。目につく場所に掲示することで意識できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩やひなたぼっこをすることで地域の住民と顔馴染みになっている。今年は玄関先で野菜や花作りをしたことでご近所の方から毎日のように話しかけてくださり、日常的に交流ができた。	自治会に加入し奉仕作業への協力や行事への参加を続けているが、今年度は特にボランティア利用を積極的に行い、敬老会には日本舞踊や民謡、他にも音楽演奏など交流の機会を増やしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者が地元の行事に定期的に参加したり、ご近所の方が避難訓練に参加して下さる中で、身内の方の相談を受けることが多くなって、アドバイスをすることもある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催することで事故報告書の内容を深く掘り下げたり、困っていることについて参加者の意見をもらいサービスの向上に繋げている。	近くの自治会に呼び掛けてみたが協力を得られなかったため地域からの参加に至っていない。家族も遠方で参加は少ないが、担当課からの出席で定期に開催している。行事等施設の状況を伝え意見を得ている。	できるだけ多くの参加者で会議が開催できるよう検討いただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業の運営・サービスなどで、保険者の担当者と協議しながら適切にサービスを提供している。	担当課からは運営推進会議に毎回参加を得ており、会議の場で災害時の避難について意見が出たので投げかけている。生活保護の方の情報提供や認定調査時にも関わりがありいい関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	三ヶ月毎に身体拘束適正化委員会で研修を行い、全職員の知識と理解を深め、身体拘束をしないケアを実践している。	玄関の施錠はせず自由に入出りができるようになっている。身体拘束の適正化委員会を定期に開催し、事故報告を詳しく分析し対応策を考えたり、向精神薬の使用について検討したり、具体的事例を取り上げ理解を深めている。外部研修も積極的に参加している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年一回、高齢者の権利擁護・身体拘束・高齢者虐待防止の研修に管理者や職員が参加し、それを持ち帰り全職員に伝達している。スタッフ会議では毎回行事に定期的に議題に挙げ防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で学んだことや新聞等から得た情報を基に、制度について理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	できるだけ時間をかけて説明をしている。疑問点についてはどんどん聞いていただき、理解・納得を得られるように努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時には内部・外部の相談窓口の説明を行い、面会時には家族や入居者から意見や要望を聞かせて頂けるように声掛けをしている。遠方の方には電話やおたよりで意見を聴くようにしている。	2年に1回のペースで家族会を開催している。家族アンケートを実施したりグループの季刊誌に加え、毎月入所者の様子を伝える便りを送り意見を得るようにしている。便りには日々の記録から印象に残る会話を載せるなど工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議で出た意見や要望は本社に伝えるようにしている。また、個人面談を定期的に行い、個人の思いを聴く機会を設け、解決すべき事柄はなるべく早く解決に向けて動くようにしている。	虐待の自己評価を行った際、年2回個人面談を実施している。今年度取り組みたいことから個人目標を掲げ意識するようにしているが、管理者は日ごろ言い出しやすいような雰囲気になるよう心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士等の資格取得に向けて支援や取り組みを行っており、現在二名の職員がその制度を利用し研修を受講している。また、個々の事情に合わせた勤務体制を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修には、職員一人ひとりに合わせた内容の研修に偏ることなく参加している。施設内では、それぞれが担当を持ち、仕事にやりがいを感じられるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模ケア研修に参加したり、他のグループホームとの連携をとり情報を交換、共有することで、サービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問面談や施設見学に来ていただいたおり、ご本人や、ご家族の思いを十分に聞かせていただき、入居後の生活への不安を少しでも取り除いてもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在に至るまでの経過等の傾聴に努め、家族等が困っていること、不安に思っていること、要望等を聴きながら信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの電話や施設に来所されて相談を受けることが多くあるが、「その時」の状況をしっかり把握し、いろいろなサービスや施設の特徴や役割をお話して参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人のできる部分を把握することでそれぞれの役割を持って生活していただけるように声掛け、支援を行っている。また、お茶の時間には入居者の昔話を聞きいろいろ教えていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族のいろいろな関係性を重んじつつ、ホームでの生活ぶりや日々の出来事を細かく伝え、協力してもらえることはお願いし、共に本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも気軽に面会に来ていただけるような雰囲気作りに努め、入居前に暮らしていた街にドライブ等で訪れたりしている。	地域で昔から続く行事への思い入れが強く普段の会話にもよく出てくるため、毎年出かけるようにしている。顔馴染みの人に出会える貴重機会となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の何気ない日常会話や行動を通して関係性を把握し食事の時や寛ぐ時の席を配慮するようにしているが、そうした中で、他の入居者を思いやる姿がよく見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養等に転所された後も、家族からの電話で相談に乗ったり、「お世話になった職員さんに会いたい」と来所されたこともある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望、意向を日々の関りの中から把握するように努めているが、困難な場合は職員皆で検討したり、家族、主治医等の意見を聴きながら対応している。	日ごろの会話の中での意向や不満などを含めて聞き逃さないようにしている。日々の記録に記入し計画作成に生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、家族や担当ケアマネジャーからできるだけ多くの情報を収集している。また、入居後も分からないことは聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子を細かく記録することで、一人ひとりの状態・状況を把握するようにしている。特に体調やできることは日々変化するので気をつけて支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時や電話で、日頃の本人の思いを伝え話し合いをし、介護計画を作成している。また、主治医や訪看、スタッフの意見も取り入れてより良い生活の実現のために見直しを行っている。	日々の記録を基に情報を共有するようしており、短期目標に沿って定期的にモニタリングをまとめている。担当者会議も家族関係者の参加を得て開催しており、利用者からは家に帰りたいという思い、家族からはここでの落ち着いた生活が希望で、計画に取り上げにくいと感じながらも、現行に添った計画になるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録にケアの実践・結果、気づきや工夫が書かれており、それを必ず読むことで情報の共有ができています。また、スタッフ会議で意見を出し合い介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援や臨機応変にサービスが提供できるように、個々のニーズに応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの近くにある神社にお参りしたり、スーパーでの買い物を楽しんだり、また、近所のお花いっぱい庭を拝見したりし、心身の安らぎを感じ安全で豊かな暮らしを楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人・家族へ今までのかかりつけ医と事業所の協力医のどちらにするかを決めていただいている。必要時には、皮膚科や外科、精神科の受診も支援している。	往診を基本としているため、入所時に事業所の協力医への変更について理解を得るようにしており、月2回の往診で対応。休日夜間、緊急時にも指示が得られるようになっており、看取り時の協力も得られている。精神科については職員が付添い受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の情報や気づきをノートに記載し、週に一度の訪来所時に相談をしている。また、急変時には診ていただき適切なアドバイスをもらい受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より、病院関係者、特に相談員とは密に連絡を取るようし、安心して治療に励んでもらい、早期の退院に努めている。また、日頃から相談員とは入居者の紹介等で連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り等に関する説明は契約時に、書面・口頭で行っている。重度化した際には、本人にとってどうすることが一番良いのかを事業所の内情を説明しながら皆で話し合っている。	今年も1名の看取りを実施しており、現在も介護度5の方がいる。かかりつけ医の協力体制もあるため、今後に於いても利用者本人や家族関係者の希望がある場合は取り組む意向を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署や看護師の協力を得て、応急手当の訓練をしたり、急変時の事例を振り返り研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年一回の消火・避難訓練には近所の住民も参加し、協力体制を構築している。今回は土砂災害に伴う避難訓練を実施した。また、職員が地域の「防災研修会」に参加するなど防災の知識と地域との連携を図っている。	火災や自然災害等の想定を変更して、訓練を実施している。火災の訓練には地域からも参加を得て、初期消火や避難を一緒に行っている。火災報知器の誤作動がおこったため全員での避難も経験。災害を含めて色々なことが起こるという意識、想定内のこととして考える必要性を感じる場面があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを察し、一人ひとりの人格を尊重し、さりげない働きがけを心掛けている。トイレ介助では下半身に掛けるタオルを用意したり、必要時だけトイレ内に入るようにしている。	本社で行われる接遇研修に参加したり、ケアの基本としての意識を持つようにし、排泄時の配慮や入浴時の同性介助等配慮するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつや飲み物を選択できるように何種類か準備したり、お手伝いをお願いする時も断定するのではなく「～してもらえますか?」「今、大丈夫ですか?」というような声掛けで自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やおやつを「今はいらない」と言われたら30分遅らせて様子を見て再度、声掛けを行っている。また、その方の状態や気分や生活習慣に配慮し、希望があれば、ドライブ等の外出支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望される化粧品の購入は一緒に買い物に出かけたり、特に、外出支援時にはその人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の野菜や果物をできるだけ提供し、楽しい会話が広がるようにしている。また、スライサーでの皮むきや包丁での切る作業等殆どを一緒にやり、片付けや洗い物もそれぞれの得意な方に手伝っていただいている。	食材の買い物にはほぼ毎日出かけ、できる作業はみんなで協力して行い毎日の日課のように取り組んでいる。職員が間に入りテーブルを囲み楽しい時間となるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師・看護師と相談しながら個々の食事量や栄養バランス、水分量に配慮し支援している。また、好き嫌いのある方には代替えで対応している。摂食・嚥下障害のある方には食事形態等いろいろな要素を検討し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、歯科衛生士の資格を持つ職員の指導の下、一人ひとりの状態に合わせできない部分を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の細やかな記録を基に声掛けや誘導を行い排泄の失敗を少なくするように努めている。歩行状態悪化の人も可能な限りトイレで排泄ができるように支援している。	習慣から洋式トイレが使えない方、紙パンツがはけない方等個々に合わせた介助としている。重度でおむつの方は定期交換しているが、不快にならないよう気を付けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な食事量と水分量を摂取し、自然排便を促している。便秘時には個々に応じ、早朝の冷水、牛乳を飲んでもらったり散歩に同行し運動を一緒に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則として曜日や時間を決めてはいるが、本人の意向に沿って自由に変更を行っている。また、面会者がある時の変更も随時行っている。	重度になっても2人介助でできるだけ中に入れるようにしている。シャワー浴の方もあるが同性介助を基本とし中でゆっくりできるようにしている。週2回は入れるように曜日を決めて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、居室で横になる人も多く、ゆったりとした時間を過ごしておられる。安心して気持ちよく眠れるように個々に添った声掛けや時間の過ごし方をいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はノートで細かく職員に伝え共有できている。また、服薬支援と症状の変化を記録し、必要時には主治医や看護師に伝え、指示をいただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや裁縫等で、本人の力を発揮していただけるように声掛けをしている。買い物や散歩、ドライブなどで気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お店の協力をもらい、食事やおやつの外食支援を毎月行うようにしている。また、その日の希望に添って、天候を見ながら散歩やひなたぼっこ、ドライブに出かけている。	食材の買い物や近所の散歩を日課としており、毎月1回は外食やお茶にも出掛けるようにしている。花見や紅葉狩りなど季節を感じられるよう外出の機会を増やしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にお金を持って来られる方が殆どいないので、お祭り等で買い物をする時はお金をお渡しし買い物を楽しんでいただいている。普段は希望される商品を立て替えて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話をかけることが難しくなっているので職員が代わりにかけることが多いが、自由にお話ししておられる。手紙をよくもらう方も電話でのお礼が多い。ただ、年賀状は書ける人には書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下には季節の花を飾り季節感を味わえるように工夫している。月々の担当職員が飾り付けに工夫を凝らし、生活感や季節感を取り入れるようにしている。入居者と一緒に作業することもあり笑い声が絶えない。	住宅地だが、車の出入りが比較的少なく静か。2つのユニットが左右対称で中庭と事務所を共有している。中庭にはベランダがあり洗濯物を干したり、畑もある為作業をしたりする場所になっている。キッチンも一緒に動ける十分な広さがあり、テイルームに続き明るさも適度。中庭の野菜や果物から年間を通して季節を感じる事ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のホールには椅子やソファを配置し、どこでも好きなところで寛いでいただいている。また、それぞれの好きなジャンルのDVDやカセットを用意し、一人で鑑賞されることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込まれたり、居心地の良いスペースになるように本人・家族と話し合いながら整えている。身体機能の変化に応じて、配置を変えたり椅子や電動ベッドを用意したり、季節の花を飾ったりしている。	大き目のクローゼットにベッド下にも収納用引き出しがあるため、あまり多くの家具が持ちこまれていないが、テレビや衣装ケース、テーブルなどを置いてくつろげるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台2か所に全員の歯ブラシやコップを設置し何時でもどこでも歯磨きをすることができ、トイレには分かりやすいように張り紙をして、入居者が認識しやすい環境作りに努めている。		